

令和6年度 学校評価シート

東海市立横須賀中学校 住 所 東海市高横須賀町猫狭間2番地 電話番号 0562-32-2241 児童/生徒 757名 校長名 岩田久徳 23学級（内 特支3）			○ 教育目標 ・ 質実(実質を重んじ、自らを律する) ・ 勤勉(心身を鍛え、学び続ける) ・ 奉仕(他者を思いやり、主体的に動く) ○ 地域の特徴 ・ 町内会やコミュニティの組織がしっかりしており、地域的な教育力もよく残っている。 ・ 保護者の多くが本校出身者であり、学校への協力体制もよくとれている。			資料等
中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和7年2月10日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
知 学習指導の 充実	○「思考力、判断力、表現力の育成 ○自己学習力の育成 ○協働学習を取り入れた授業展開の育成 ○個に応じた学習方法の充実	○生徒・保護者・教師の学習に関するアンケート結果を比較・分析し、本年度、学校体制で取り組んできた授業研究や教師研修の成果を考察する。評価項目は、生徒「授業は楽しくて分かりやすい。」、保護者「学校は楽しくて分かりやすい授業をしている。」、教師「楽しく分かりやすい授業を実践している。」等、共通項目の本年度結果を中心に比較・分析するとともに、それぞれの独自項目とも合わせて、昨年度との比較で考察する。また、各種学力検査の結果についてもアンケートと合わせて分析し、評価に生かす。	○「楽しく分かりやすい授業」に関しては、84.16%の生徒が「授業が楽しい」と評価しており、肯定的な評価を得た。「授業が分かる」の項目については昨年度比で微増ではあるが0.7%増加している。保護者に関しては62.1%が「学校が分かりやすい授業をしている」と評価しており、昨年度比で5.4%減少した。教師は「楽しくて分かりやすい授業を実践している」が93.3%と高い評価となっており、昨年度と比較すると1.9%とわずかながら減少している。 わずかながらあるが、生徒の肯定的な評価の割合が高いことは、学びの土台を支える授業づくりにおいて「基礎基本の充実」や「楽しく分かりやすい授業」の実践を重ねてきた成果が少しずつ現れてきたともいえる。ただ、保護者の受け取りには少し乖離が見られることと教科によっても差が見られる。	○生徒の「授業を楽しく分かりやすい」との評価が高い割合となっている。基礎基本の定着を目指したきめ細やかな支援や、ペアやグループ等での協働的な学びによる相互交流で学び合える場が多く設定されてきた成果といえる。また、ICT機器の効果的な活用方法を検証し、学びの手立てがより広がり深まっていくように工夫を重ね、楽しく分かりやすい授業を目指したい。さらに、教師が生徒の実態を把握し、分かる授業づくりに向けて指導方法について研修を深め、よりよい授業づくりに努めることは欠かせない。	○「授業で分からないとき、先生に質問しやすい」の数値が低い。楽しく分かりやすいとの評価を得ているが、困り感を抱えている生徒を教師が把握できていない状況も考えられる。なぜ質問しづらいのか検証し、先生に質問できる環境を整えていく必要があるのではないかと。また、ICT機器等を活用して、分からないことを自分の力で調べようとする主体的な姿勢が育つとよいのではないかと。 ○「進路学習・授業の様子・ICT機器の活用・いじめへの対応」に関する保護者の回答で「わからない」の数値が高い。学校での様子がつかみにくい設問内容ではあるが、本当に分からないのか、それとも分かるとうとしないのか、分析は難しいが、生徒たちが困らないように、今後も丁寧に対応していく必要がある。	【現職教育の推進】 ○教師の力量・意識向上のための取組 ・研修会の企画、研修会への参加(最新の情報を得る)を増やす。 ・授業づくりの研修を年間計画に位置づける。 ・ICT機器の効果的な活用方法を検証する。 ・生徒理解研修を取り入れる。情報共有を図り、実態把握に努める。 ○授業の取組等についての保護者への発信 ・授業参観を実施する。 ・授業の取組、本校の取組について学校通信を通して広く発信していく。
徳 豊かな心の 育成	○意見交流 ○奉仕活動や思いやりをもった人権教育の充実	○生徒・保護者・教師・地域住民のアンケート結果を比較・分析する。評価項目は、「授業を通して、自分の意見や友達の見解をお互いに伝え合うことが得意になってきた。」「毎日の清掃活動や係の仕事に責任をもって行っている。」「学校祭や合唱祭等の学校行事が心の成長に役立っている」等、四者共通となっている項目を中心に比較・分析するとともに、それぞれの独自項目とも合わせて、昨年度との比較で考察する。また、教師による「学校運営に関わる年度末反省」や活動に参加した生徒の活動記録・感想等も評価の参考とする。	○「タブレットを活用した学習で、友達と考えを交流したり、自分の考えを深めたりすることができた」では、67%の生徒が肯定的な評価をした。昨年度と比較して2%減となった。また、「自分の意見や友達の見解をお互いに伝え合うことが得意になってきた」では、72.8%の生徒が肯定的な意見であり、昨年度より2%増となった。教師の取組に対する意識は、88.8%となっている。タブレットを活用した授業展開の定着と、教師、生徒ともにその有用性を実感しながら授業に取り組んでいるからだと考えられる。また、授業展開を工夫し自身の考えを交流し学び合う学習環境が整ってきたとも言える。 ○清掃活動や係活動については、約90.1%の生徒が責任をもって誠実に役目を果たしており、「よくあてはまる」との回答は全体の50%を占める。 ○「学校行事が生徒の心の成長につながっている」では、生徒・保護者・教師・地域住民ともに80%以上が「あてはまる」と回答している。	○タブレットを活用した学習スタイルが確立しつつあり、多様な考えを共有することができている。さらに思考の深まりにつなげていくためには、タブレットに偏るのではなく、対話する場面も意図的に設けていくことが有効だと考える。生徒の力を伸ばし、学びに直結する活用の在り方についても模索していきたい。 ○清掃、係活動においては意義を理解させ、自発的に各自が取り組めるように指導を継続していく必要がある。 ○学校祭においては、生徒自身の手で運営し、やりがいと達成感をもって取り組んだ。生徒の大きな成長につながる行事であり、生徒、教師、保護者とも行事の有用性を感じている。今後も生徒の成長につながる学校行事を展開していけるように努める。	○教師と生徒の結果に大きな差が見られないことから、よい関係が構築され、認め合っていることがわかる。 お互いを思い、豊かな心を育てていくことが大切である。 ○生徒会活動や委員会活動の活動実績が見られるようにするとよい。大きな行事だけでなく、日常の生活の中で自主的・自発的な活動を積み重ねることで、自由に討議する力や自分たちの手で作り上げる喜びを感じ、取り組む意義を見出すことができる。 ○企業では、他社から学ぶ取組を実践している。学校においても、他校から学ぶ機会を設け、どのような工夫がなされているのかを直接見て学ぶことも成長につながる。	○協働的な学びの充実 ・ICT機器を活用した学び合いの手立てについて検証を進める。 ・生徒同士の関わりを深める研究授業を行う。 ○自己肯定感や自己有用感を高める取組 ・生徒が主体的に活躍できる場を全校集会等に仕組む。 ・学校行事の充実を図る。 ○清掃活動や係活動の充実 ・日常生活において、生活環境の整備や係活動に責任をもって取り組む姿勢を育む。 ・校内ボランティア活動を充実させ、特にYPD活動の参加人数を増やす取組を行う。
体 基本的な生活 習慣の確立	○時、場所、状況に応じた行動（時間、決まり、マナーの遵守） ○あいさつの励行 ○食育の充実	○生徒・保護者・教師のアンケート結果を比較・分析し、生徒の体力・健康、及び安全に関する取り組みの成果を考察する。評価項目は、「学校の決まりを守って生活をしている。」「交通ルールを守って登下校している。」「家や近所の人にあいさつをしている。」「食事や運動、睡眠時間の確保など、健康を考えた生活を送る。」等、共通項目を中心に比較・分析するとともにそれぞれの独自項目とも合わせて、昨年度との比較で考察する。	○「学校の決まりや交通ルールの遵守」では、95%の生徒が肯定的な回答をしており、規範意識の高さが見受けられる。また、挨拶については、約80%の生徒が家庭や地域での挨拶を心掛けて生活できていると回答している。保護者の結果では、76.2%、地域住民の結果では64.1%、学校での挨拶については、教師の評価は86.7%と昨年度と比較すると3者とも数値が増加しており、特に校内において昨年度より15.3%増加しており、日々の生活の中で互いに挨拶をするよい習慣が身に付きつつあると考える。 ○生活習慣の面では、72.5%の生徒・66.1%の保護者が「健康を考えた生活を送る」ことに心がけていると回答している。「テレビ、ゲーム・スマホの利用についての約束」は、生徒は46.61%・保護者は57.4%と回答しているが、約束事を決めて使用している家庭の割合は高いとはいえない。健康に対する意識は高いものの、スマホ等の利用で睡眠不足になっている生徒が多く見られる。	○校内での規範意識は着実に高まっている。ただ、地域の方から自転車の乗り方や歩行の仕方についてご意見をいただくことはある。命の危険もあり、交通事故にもつながっていくため、登下校時に安全に留意することや自転車の乗り方について、定期的に指導し、生徒が安全に登校できるようにしていきたい。 ○スマホの使用が健康面や人間関係のトラブルに大きく影響している。本年度もICT支援員による使い方に関する授業や消費者トラブルに関する講演を実施した。また、学校保健委員会では委員会が中心となって、本校の健康上の課題について全校で考える機会をもつことができた。	○挨拶については、全員で取り組んでいくべき課題である。ただ、最近では学校を訪問した際の挨拶が減ってきている。また、近所を散歩しているときも挨拶を交わす機会が減ったと感じる。SNSの利用により、画面越しでの関わりが増え、対面で言葉を交わすことが減ってきていることも一つの要因ではないかと思う。ただ、挨拶は、されるのを待つのではなく、自分からかけ続けることが大切である。地域の人も自分から積極的に挨拶を交わすことが必要なのではないかと。 ○設問内容によっては、生徒と教師は肯定的であるが、保護者や地域住民の回答は「よくわからない」と回答する割合が高い。知らないこともあるだろうが、よく知ろうとしないのではないかと。生徒が肯定的に取り組めているので、その姿が伝わっていくとよい。	○交通マナー向上への取組 ・定期的な交通安全指導の実施と継続的な自転車利用指導を行う。 ○保健意識の啓発 ・生徒の実態からテーマを設定する学校保健委員会を開催する。 ・スマホ、ICT機器の利用に関する授業を行い、健康面からのアプローチを行う。 ○食育の充実 ・年間計画に基づいた指導の徹底を図る。 ○挨拶の励行 ・教師から率先垂範して挨拶をする。 ・生徒自身が自ら気づき考え行動できるような生徒会・委員会活動の充実を図る。
地域 連携 開かれた学校 づくりと 地域の誇り となる学校 の構築	○地域に貢献し、地域の誇りとなる学校づくり ○積極的な学校からの情報発信 ○地域との連携（地域行事への参加、ボランティア活動の推進）	○生徒・保護者・教師・地域住民のアンケート結果を比較・分析し、学校と保護者・地域との連携に関する取組を考察する。評価項目は、生徒「地域の人にあいさつを行ったり、地域行事に積極的に参加したりしている」、保護者「保護者としてPTA行事に進んで参加している。」、教師「地域行事に参加する生徒の応援に出かけている。」、地域「学校は地域行事に協力している。」などの四者の連携に関する内容と、学校からの情報発信に関する内容を中心に、昨年度とも比較・分析する。	○生徒の地域との関わりを問う設問では、肯定的な回答は約60%と昨年度と同様の結果であった。地域との結び付きが強い校区であり、地域の活動も活発化してきたことも一因であると考えられる。また、夏休みのボランティア活動や今年度より実施している校内ボランティアには想定以上の生徒が参加を希望するなど、地域で活動する意識は高いと考える。 教師に関しても、55.6%と昨年度から3.3%増加し、生徒の活躍の幅が広がったことや地域の一員として参加する生徒の活動が活性化してきたことに伴い、数値が増加したと考えられる。 ○学校からの情報発信に関しては、保護者の評価は昨年度から7.4%増加した。地域住民からの肯定的な評価も69.2%と昨年度と比較して2.5%増加した。学校公開等で学校の様子を見る機会に足を運んでくださった保護者が増えたことや地域の活動等で生徒の活動を見ていただく機会があり、生徒たちの活躍の場が広がったことが影響したと考える。	○地域の伝統的なお祭りに多くの生徒が参加している。地域の一員として誇りをもって取り組んでいる様子は大変心強い。地域の宝として成長を支え、生徒が地域に愛着をもてるようにコミュニティとの連携も大切にしていきたい。 ○学校公開時には多くの保護者が来校し、生徒が活躍する姿を間近で見たいとすることができた。保護者に学校の様子を直に見ていただくことで、学校の様子をつかんでいただき、相互理解を深めながら、保護者と両輪で生徒を見守り育てていきたい。また、HPや学校新聞を活用し、生徒の様子を少しでも地域の方に知ってもらえるように発信していきたい。 ○今年度から校内ボランティア活動に取り組んでいる。生徒の活躍の場を広げ、学校に愛着をもち大切にすることを育んでいきたい。	○コミュニティの一員として、自分に何ができるかを考えることが必要である。 ○防災の意識が高まってきている。ボランティア活動に参加する中学生の中にも防災学習に対する意欲の高まりを感じる。 ○ボランティア活動への参加率は昨年度よりも高まっている。生徒たちが興味をもつて活動に取り組んでいる様子が見られる。地域住民の一員として、地域での活動を大切にし、地域で愛される子の育成につながるとうい。 ○教師と地域とのつながりもこれからも大切にしていきたい。ただ、過度な負担にならないように、連携していきたい。	○地域連携等に対する教職員の意識啓発 ・おや心の会、民生委員との会など、多くの場で教職員との接点を増やしていく。 ○地域ボランティア活動の充実 ・生徒の地域でのボランティア参加への啓発を踏む。 ・市内のスポーツ行事、祭礼、コミュニティ活動におけるボランティア活動を奨励する。 ○開かれた学校づくり推進の取組 ・学校だより「汐見が丘」を地域へ配付する。 ・関係機関と連携した生徒が主体となって学べる防災学習の実施を取り入れる。